

成績優秀者が北海道でホームステイを体験

共立財団日語学院では、成績優秀な生徒は、学校の補助を受けて、一般財団法人共立国際交流奨学財団主催の研修会に参加することができます。今回、下記のプログラムに1名が参加しました。

参加プログラム：一般財団法人共立国際交流奨学財団 第61回研修会
 研修先：北海道（美幌）
 研修会期間：2011年8月24日(水)～29日(月) 5泊6日
 参加者氏名：王 圣以

王さんの感想文

一週間の北海道旅行が終わった。その思い出はまだ深く、私の脳裏に残っている。思い出すと、自然と口元に笑みが浮かんでくる。今回のホームステイは、私にとって思いがけない幸運な贈り物のようなものだった。私は永遠に心に刻みこんで忘れないと思う。

当初私は、ホストファミリーが、異文化体験をさせることを純粋な目的としているのだと思っていたが、実際に行ってみると、それだけでなく、心と心の交流があり、「第二のホーム」を体験させようという気持ちが感じられた。

飛行機から北海道を見下ろすと、畑ばかりで、まるで大自然のじゅうたんのようだった。本当に美しいと思った。

1日目は、グリーンビレッジ美幌で、緑あふれる生活を体験した。木の香りが漂うロビーはゆっくり時を刻み、私をリフレッシュさせてくれた。夜の森林公園キャンプ場で、緑に囲まれておしゃべりをしながらバーベキューをして高台に登ると、美幌の雄大な景色が広がっていて、その美しさは言葉では言い表せないくらいだった。お腹も心も大満足だった。



翌日は、華道体験で日本の文化を体験した。作法を磨いてすごく勉強になった。

ホストファミリーのお母さんはたくさん北海道の料理を作ってくれて、お父さんもいろいろなことを話してくれて、趣味の写真について教えてくれて、本当に嬉しかった。次の日、皆でホストファミリーと一緒にジャガイモ収穫体験をしたり、パークゴルフをしたり、そば打ち体験をしたり、慌ただしい東京の日常から離れて、大自然に戻ったという感じがした。



美幌峠を登った時、「そんな気持ち、初めてなので、何となく、何となく、幸せ」という看板の言葉を見て、ぴったりだと思った。その景色は「天下の絶景」と呼ぶに値する。



最後のお別れパーティーでは、皆、楽しかった思い出を振り返って、ホストファミリーと何度も抱き合いながら、涙の別れをした。私は、「今はさよならだけど、また新しい明日が来るはず。」と思った。また会えると思って。私たちは、向かうべき、その場所を目指してゆくほかはない。

スタッフの方々もホストファミリーも、年齢が違って、私を仲間のように接してくれて、言葉では表せないくらい、本当に感謝している。お世話になった人たちのことはきっと忘れない。今回の旅がきっかけで、私は努力すれば人生が開けていくということがわかった。必ず前へ進んで頑張っ、また美幌の友達に会おうと思う。

